



第7回公開講座報告

日時 8月8日(月) 13:30~16:30
テーマ 京都府南部弱視特別支援学級等担任向け研修会
「弱視通級指導教室における実践に学ぶ」
講師 広島県立広島中央特別支援学校 樋口 正美 氏



この研修会は、京都府南部地域の弱視特別支援学級の担任の先生、見えにくさのある児童生徒が在籍する通常学級の担任の先生を対象にした研修会です。京都府南部地域では、弱視特別支援学級は5校に設置されています。それぞれの学級で弱視児の指導にあっている先生方が一同に集まり、同じ悩みで話ができるとても貴重な機会になっています。

今年度は、広島県立広島中央特別支援学校の指導教諭樋口正美先生をお迎えし、「弱視通級指導教室における弱視児の指導」について、お話をいただきました。樋口先生は、広島市立本川小学校の弱視通級指導教室で11年間、弱視児の教育にあたられました。その実践の中から、具体的な指導法だけでなく、学級の「目指す子ども像」などについてもお話をしてくださいました。



弱視学級で指導をしておられる先生方は、子どもの見え方に合わせて様々な配慮や支援を考え、工夫をしながら指導をされています。そのような配慮や支援も大切ですが、弱視学級として、もう一つ大切なことは、子どもに必要な力をつけることです。弱視の子どもが将来社会に出た時に必要になる力とは、自分の見え方について理解し、そのことを「伝える力」、自分の見え方に合ったやり方や方法を「考える力」、そして、配慮や支援があれば自分にもできるという「自信」だと、お話しされました。教師が色々な支援をしていますが、実は子どもたちは支援してもらっていることに気づいていないこともあります。どんな方法が見えやすいのか、学習しやすいのか、子どもと一緒に考えることも良い機会になるかもしれません。私たちスタッフにとっても、新たな視点に気づかされる研修になりました。

<参加者アンケートより 感想>

- ・日々の授業をクリアしていくことに必死になってしまっていたのですが、子ども達が将来出ていくことになる社会で、どんな力が必要でそれを現時点でどのように身につけさせていくのか、短期目標・長期目標を保護者とも確認しながら進めることが大切と改めて考えさせられました。
- ・目からウロコが落ちました。今までは、「この子ができるべく皆と同様に学校生活をすごせるためにどうすればいいのか」ばかりが気になって、私が困っていることを知りたくて研修を受けていたのですが、「子どもの将来のために何の力が必要か」をこれから保護者とともに考えていきたいと思いました。
- ・他学級の実践をお聞きして、大変参考になりました。漢字の書き方等、やはり王道はないと思いました。

次回、第8回公開講座は、9月28日(水) 10:00~12:00、
京都府南部弱視学級保護者向け研修会「視覚障害のある児童生徒の将来像とそなえ」です。